

高性能オーダー防音ドア

Guardian

—ガーディアン—

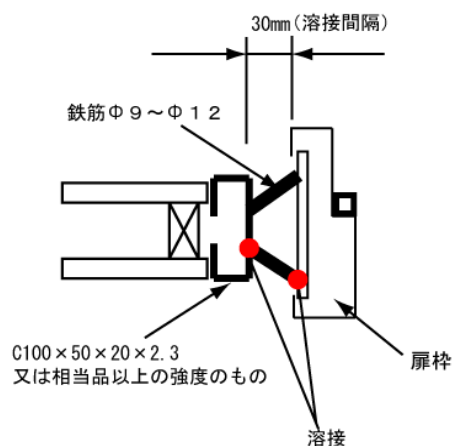
この度は防音ドア ガーディアンをご使用いただき、誠にありがとうございます。
ガーディアンの遮音性能に関しましては、弊社が自信を持ってご提供させて頂いております。
しかし、防音ドアは施工の良否によって本来の遮音性能が十分に発揮されないケースもございます。
遮音性能を十分に発揮させるために本書をよくお読みの上、お取り付けくださいますようお願い致します。

ご注意

- ①防音扉は性能確保の為、重量が大変重くなっています。
運搬・搬入・取付は最低2名以上の複数人にてお願い致します。
- ②施工の際は設置箇所の下地躯体に十分な強度を取った上で施工ください。
開口部(特に下枠)は歪み、沈みの出ないようにご注意願います。

1 開口部の寸法

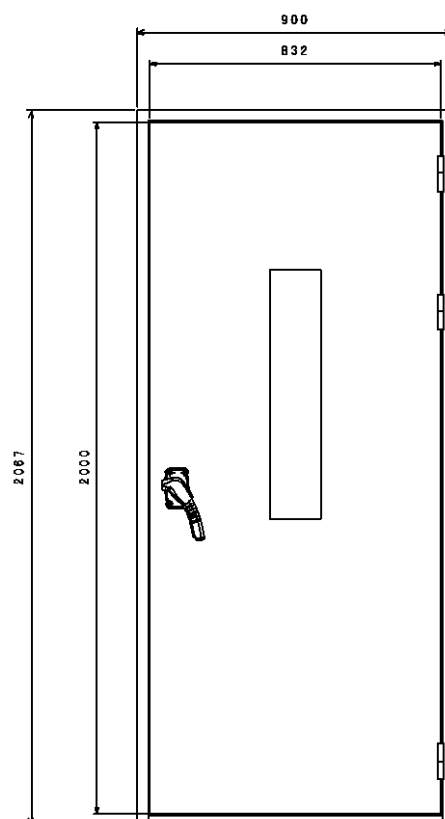
- 溶接止めの場合の開口部の寸法は扉枠外寸法＋溶接可能間隔の寸法で開けてください。
ビス止めの場合は扉枠外寸法が収まる寸法にて開けてください。(扉寸法下記参照)
(ビス止めの場合、上下左右で各1.5mm程度のチリを見てください。)



	Dr-35	Dr-40	Dr-45
扉枠外(W)	900	900	900
扉枠外(H)	2067	2067	2067
扉本体(W)	830	830	830
扉本体(H)	2000	2000	2000
扉枠出幅(D)	146	146	146
扉本体厚	53.2	53.2	58.8
扉重量(kg)	70	73	110
扉枠重量(kg)	30	35	35

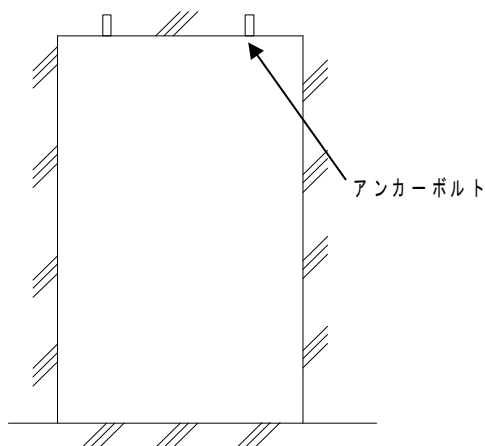
単位:mm

KOSH  <http://www.kosho-bouon.com>

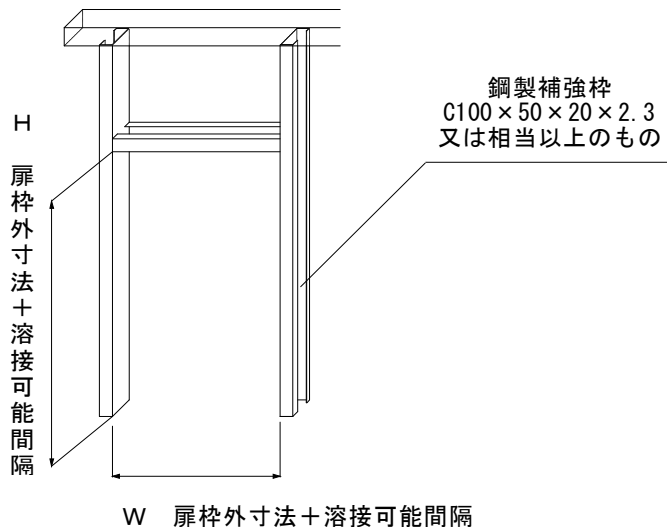


2 ドア枠の取付

●RC下地に開口をあける場合、あらかじめ開口部にアンカーボルトが埋め込まれていなければ、12mmφ以上の溶接用アンカーを打ち込んでください。



●鋼製補強枠を取り付ける場合は、
C100×50×20×2.3又は相当以上の
強度のものを使用ください。



【鋼製下地（溶接止め）の場合】

①上記同等品の鋼製下地を使用し、溶接可能間隔を確保した開口サイズを確保してください。

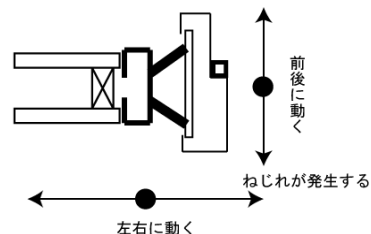
②扉取付時は扉枠にゆがみが発生することの無い様に十分な強度を確保してください。

右図のような事が無い様に十分に注意して固定してください。

③水平・垂直の精度は1mm以下にしてください。

④対角のサイズも確認してください。

⑤扉枠にゆがみ・ねじれ等が生じる事が無く、扉枠が取付用躯体が動かないように固定してください。

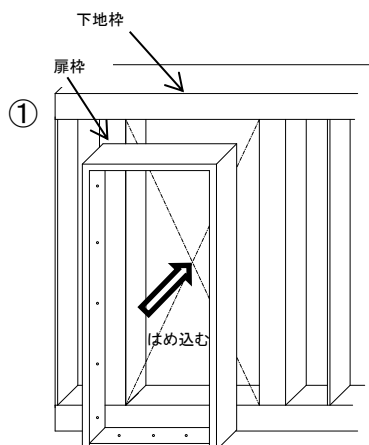


※扉枠が動くような状態だと、扉・丁番・ドアクローザー・の止めビスの緩み等の原因になる場合があります。十分ご注意ください。

⑥ドアクローザー・丁番など固定用のビスは必ずハンドドライバーで固定してください。

※電動工具を使用した場合、ネジ山が破損する恐れがございますので使用しないでください。

【ビス止め施工の場合】



① 下地枠に扉の枠をはめ込む。

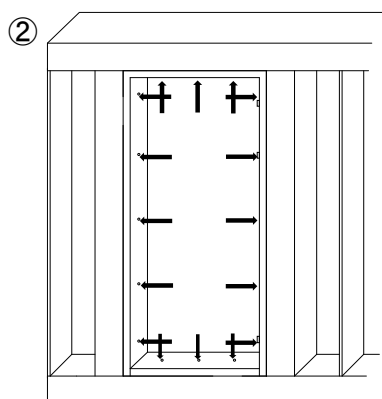
※木軸の場合、105角以上の材で下地枠を組んでください。

※枠が垂直にはまっているか、ねじれがないかを

下げ振り・水準器等で確認する

※下地枠は扉枠外寸法より最低3mm以上(左右上下各1.5mm)の余裕をみて作成してください。

扉枠を無理に下地枠に押し込むと、扉枠の歪み・ドア本体の開閉不良を引き起こす原因になります。

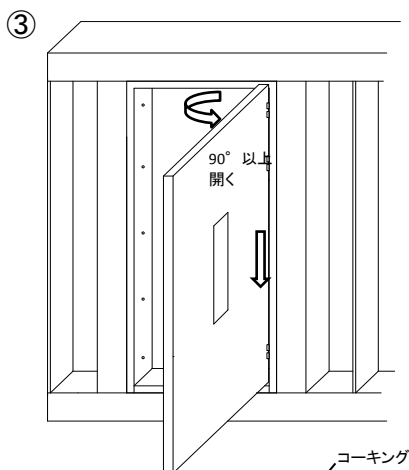


② 長さ60mm以上のビスで扉枠を下地に固定する。

下地が木製ならば木ビス、鋼製ならば鉄板ビスでを使用してください。

※きつく締めすぎると枠がへこむ可能性があるのでご注意ください。

※枠上下各3箇所、枠左右各5箇所

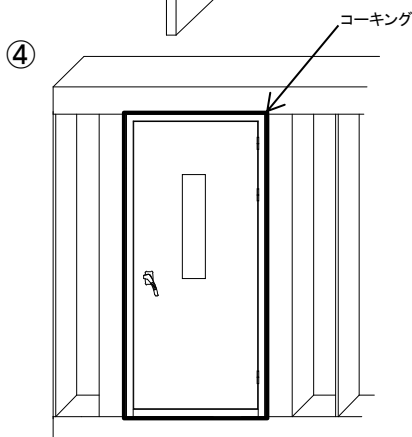


③ 扉を丁番に差し込み取り付ける。

※丁番に差し込む時は必ずゆっくりと差し込んでください。

急激に落として差し込むと丁番・ビスが破損する可能性があります。

※扉本体重量が重いので必ず2名以上で取付けてください。



④ 下地と扉枠の間をシリコン系コーキングもしくはモルタルで埋める

3 パッキンの取付

※扉枠にあるパッキン用の溝にパッキンを押し込んで取り付けてください。

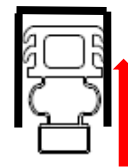
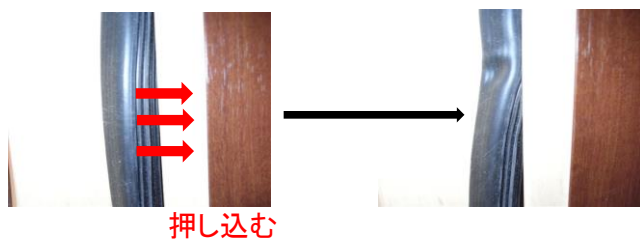
パッキンの取付は接着剤などは必要ございません。

パッキン側部のヒダが見えなくなるまでそのまま『グッ』と押し込んでください。

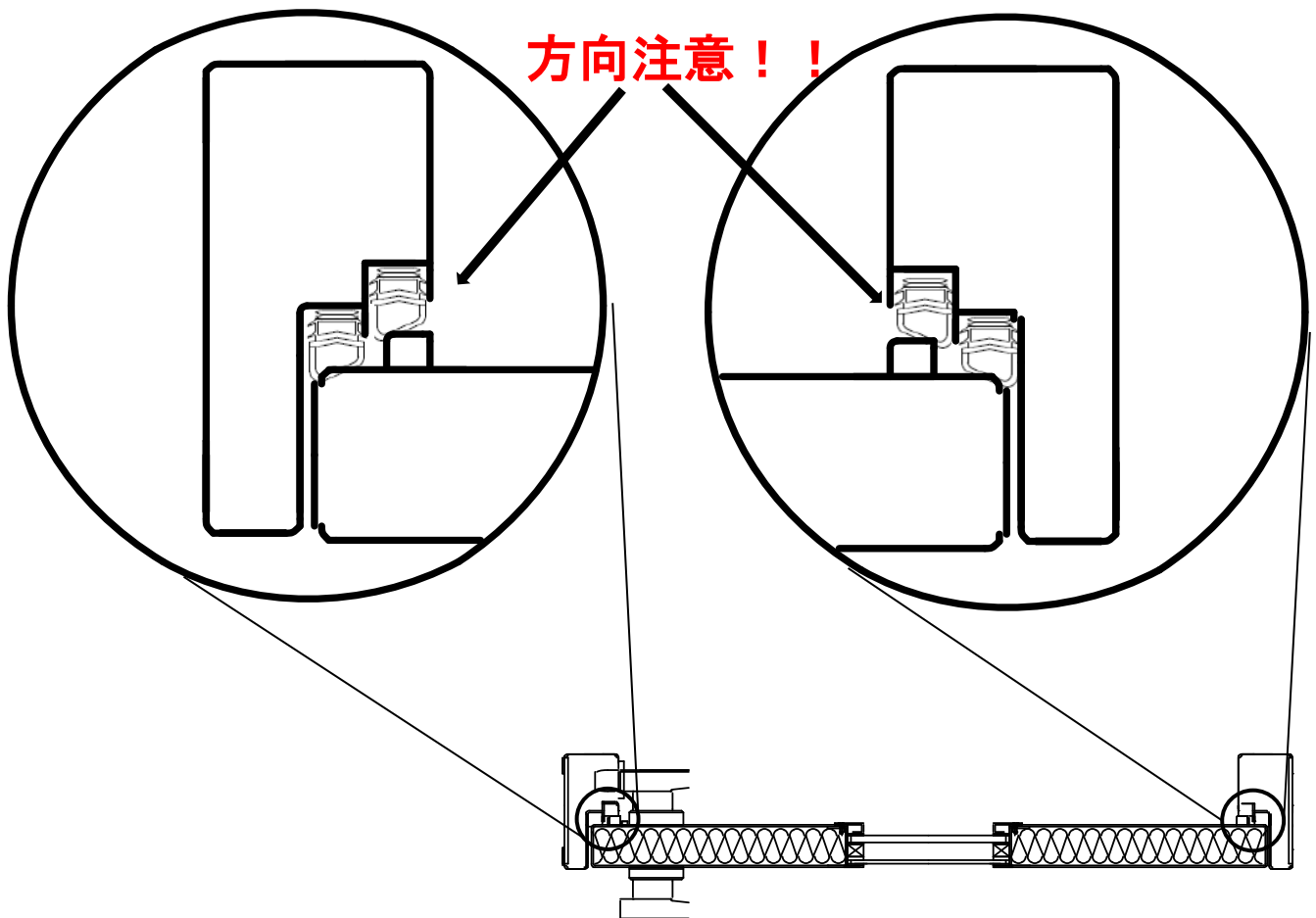
パッキンをきちんと押し込んで取付けていただかないとドアの開閉不良等につながります。

※パッキンの方向は斜辺が扉本体側に向くように取り付けてください。(下記図面参照)
(下記図面は2重パッキンの場合ですが、1重パッキンの場合も向きは同じです。)

※パッキンの裏表・方向を間違えると、扉本体にパッキンが当たらなくなり、隙間からの音漏れの原因となります。その場合、本来の遮音性能が発揮できなくなるので



マグネットパッキンはヒダの方
から押し込んでください



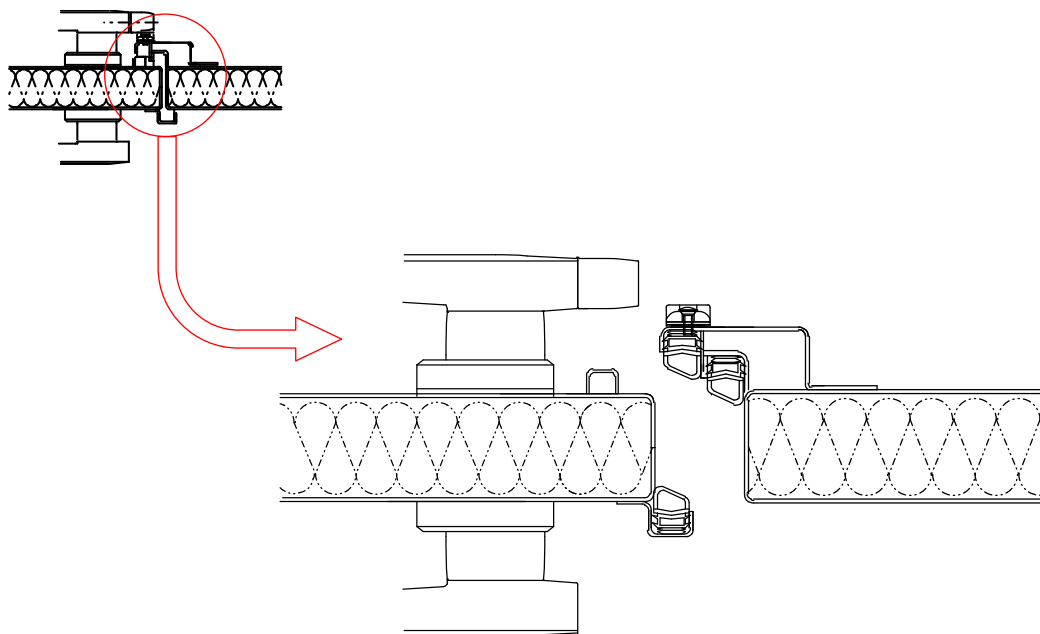
※ パッキンは端部が重なる事がないようにきっちりはめこんでください。



※ 下図のようにパッキンが重なっているとドアを閉めた時に隙間が出来、開閉不良・性能不良につながります。

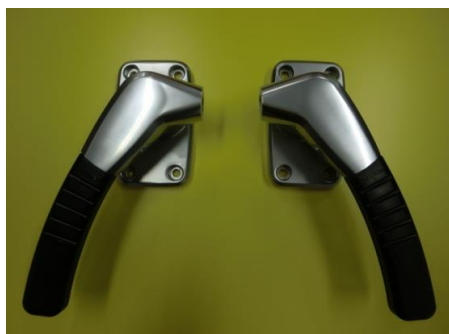


両開きドアの召し合わせ部分のパッキンは下図のように取り付けてください。
パッキンの向きにご注意ください。(仕様により召し合わせ形状は変わります)



4 ハンドルの取付

ハンドル梱包内容



・ハンドル本体×2

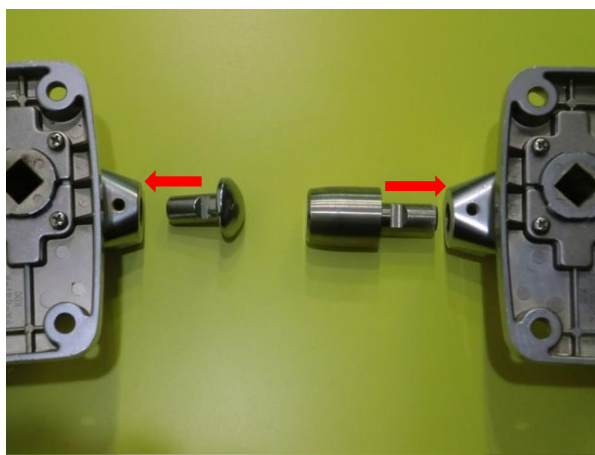


・ハンドル先端部×2種
・六角レンチ×2種
・イモネジ×2本
・ハンドル本体固定用六角頭ネジ×8
・スペーサー×2枚

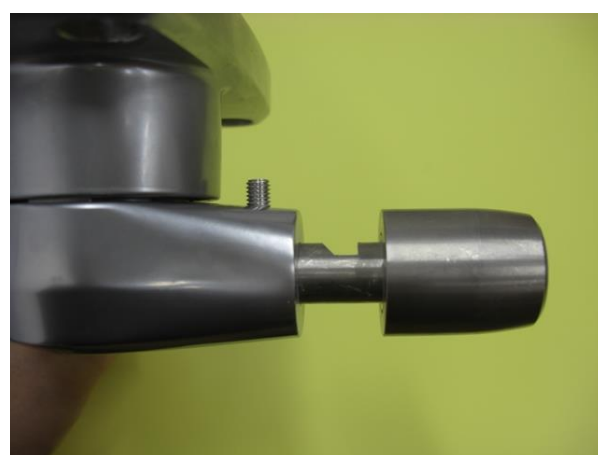


・ハンドル受け×1
・押さえ金具×2
・止めビス×4本

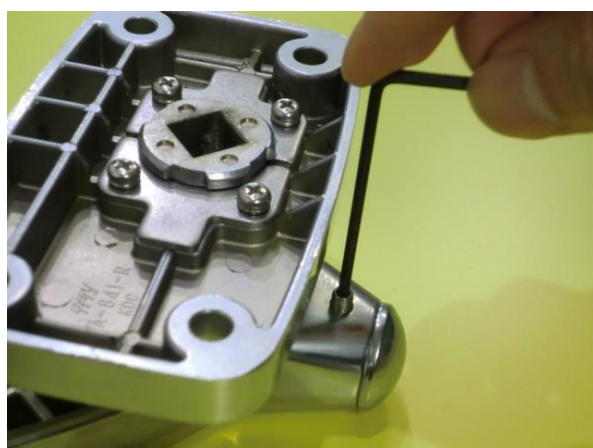
ハンドル先端部の取り付けについて



ハンドルは先端部のローラーとキャップを組み替える事により左右兼用で使用できます。
開き勝手を確認し、先端部品を取り付けてください。



先端部品にある凹みをビス穴方向(写真では上部)に向けて挿入し、イモネジで固定してください。
この凹み部とイモネジがかみ合っていない場合、先端部脱落の原因となります。



付属の六角レンチにて固定してください



先端部脱落防止の為、上記のようなネジ緩み止め剤を施すことを推奨いたします。
(一般のホームセンター等で購入可)

5 ハンドル受け金具の取付



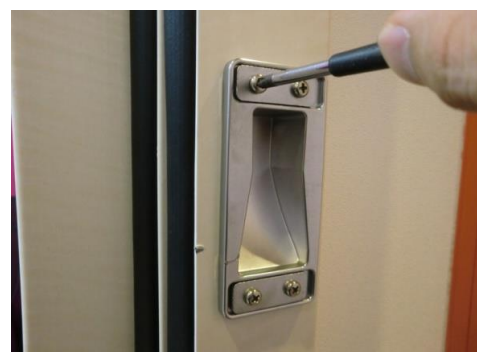
※ 狭い方が上になるように取り付けてください。

※ 受け金具のビスは必ずしっかりと締めてください。
ビスがしっかり締っていないと、経年の使用によりビスが緩み、受け金具がずれる事に起因して、ドアの締め具合が緩くなる事がございます。

6 ハンドル受け金具の調整



※ ハンドルの締め具合がきつい、またはゆるい場合はハンドル受けを調整してください。



※ ハンドル受けのビスを十字ドライバーで緩めてください。



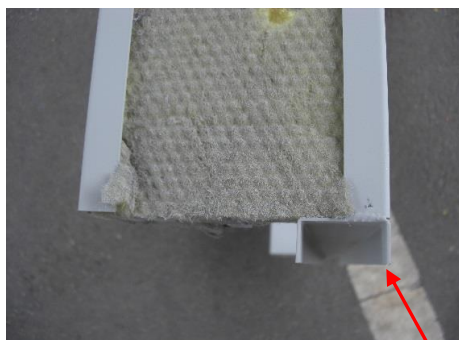
※ ビスを緩めたら、取付金具を前後に動かして調整した後、再度ビスを締めなおして固定してください。

※ オプションで鍵が付属の場合、ドアの締め具合がゆるいと鍵が閉まらないというケースがまれにございます。

その場合も左記の手順にてドアの締め具合を調整し、鍵の掛かり具合の調整を行ってください。

8 防音ドア(バリアフリー仕様)をご購入のお客様

※出荷時は仮止めの下枠(Cチャンネル)が付いています。
設置時は仮溶接部分をサンダー等で切断してから設置してください。



仮止めの下枠



※ バリアフリー仕様の場合、ドア本体下部に左図のようなドアボトム装置が内蔵されています。



※ ドア本体吊り元側にロッド棒、枠側にロッド当て板が付いています。

※ ドアが閉まると、ロッド棒がロッド当て板に当たり、押される事でドアボトム装置が下に落ち、下部の隙間を塞ぎます。

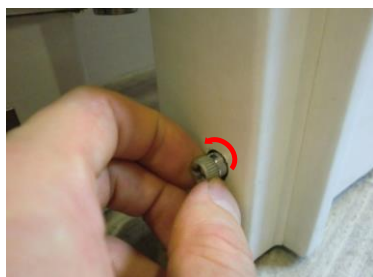
ロッド棒



9 ドアボトム装置の調整(バリアフリー仕様の場合)



- ※ ロッド棒は先端が左図のような形状になっています。
十字ドライバーや指などでロッド棒を回すとロッド棒の突出長さが調整出来ます。
当て板との当たり具合を見て、ボトム装置の下がり具合を調整ください。
ロッド棒突出寸法7mm～18mmで調整可能です。
(※ロッド棒を出しすぎてもバネの反発で隙間が生じる事がありますのでご注意ください)



- ※ ボトム装置は左図のようにビス止めにて固定されています。

ロッド棒が中に入り込んでしまったり、ボトム装置のゴムが内部で干渉してボトムの下がりが悪い場合などは左図のビスを取り外して調整可能です。



- ※ 十字ドライバーにてビスを取り外してください。

- ※ 押さえ化粧板を取り外してください。



- ※ ボトム装置の本体を引っ張って取りだして調整してください。

- ※ ドア納品時はボトム装置のゴムは長めに残してあります。
ドアと枠との隙間を考慮して現場にてカットしてください。
そのまま使用していると、ゴムが干渉してボトムの下がりが悪くなる場合もございます。

10 ドアの仕上げ施工について

- 本製品の塗装は下塗りの錆止め塗装になります。
現場にて仕上げの塗装工事や化粧シート仕上げを行ってください。
- 錆止め塗装のまま御使用されても防音性能に影響はございません。
但し、経年の使用で手垢などによる汚れや、傷をつけた場合はそこから錆が発生する場合もございます。
仕上げ施工を行った上でのご使用を推奨いたします。
- ガラス入りのドアは、仕上げ施工の際は一度ガラスを取り外して作業していただく事をお勧めします。
- ガラス付きのドアで、尚且つ化粧シートで仕上げ施工をされる場合は、
ガラスのメンテナンスの為、ガラス部分押さえ縁は取り外し可能なように施工してください。
(ビス頭も化粧シートで隠してしまわないように施工してください)
押さえ縁が取り外し不可だと、ガラスのメンテナンスが出来なくなります。
- 付属の丁番や金物はドアの仕上げ工事で取り外した場合は、
復旧時に必ず十字ドライバー等でしっかり締めこんでください。
その際は下写真のようなネジ緩み止め剤を施すことを推奨いたします。
(一般のホームセンター等で購入可)

※ネジのゆるんだままでのご使用はドアの形状変化や性能低下の要因になります。
ご注意ください。



高性能オーダー防音ドア

Guardian

ーガーディアンー

取扱説明書

この度は防音ドア「ガーディアン」をご採用頂き、誠にありがとうございます。
「ガーディアン」は鋼製防音ドアですので、レバーハンドル操作、ドア重量等が一般のドアとは異なります。
ご使用前にはこちらの取扱説明書を一読の上、正しく安全にお使いください。



使用上のご注意

- ドアや付属金物（ハンドルやドアクローザー等）にぶら下がったり、無理な荷重をかけないでください。
ドアや金物の破損、落下による事故や怪我につながる恐れがあります
- ドアの開閉は正しく、静かに行ない、ドアに指をはさまないように注意してください。
- ガラス入りのドアはガラスに強い衝撃を与えないでください。
- ストーブ等の熱源を近づけたり、直接熱風をあてないでください。
ドアや金物の形状変化による性能低下、ドア仕上（塗装やシート仕上等）の劣化につながる場合がございます。
- 付属の丁番や金物はドアの経年の使用により、ネジがゆるむ場合がございます。
ゆるんだ場合は十字ドライバー等でしっかり締めこんでください。
その際は下写真のようなネジ緩み止め剤を施すことを推奨いたします。
（一般のホームセンター等で購入可）

※ネジのゆるんだままでのご使用はドアの形状変化や性能低下の要因になります。
ご注意ください。

※ドア仕上げ工事やメンテナンス時に丁番を取り外した場合は
復旧時は同様にしっかりビスを閉めてください。



＜ローラーレバーハンドルの操作方法＞

※ドアと枠を密着させる構造になっているため、ハンドル操作が通常のドアよりも重くなっています。

- ハンドル取手を下げるとロックされ、取手をあげる（床と平行な状態）とドアが開きます。
- ハンドル取手を下げた状態のままドアを閉めると、
先端のローラーにより枠やハンドル受け金具を傷つけるおそれがありますのでご注意ください。